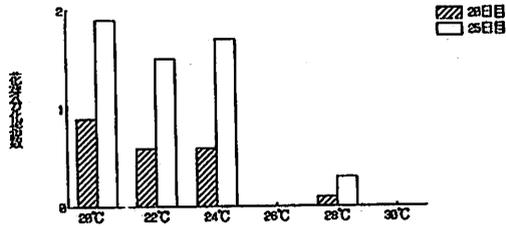
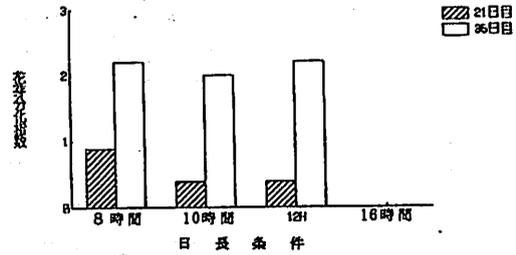


課題名	5 イチゴの低温処理育苗による新促成作型の開発と安定多収生産技術の確立	分類	②
	(2) イチゴ‘とよのか’の花芽分化に及ぼす温度・日長条件		
試験研究年次	63~2年(完了)		
I 目的 ‘とよのか’の花芽分化時期に及ぼす温度及び日長条件の影響を明らかにし、夏期低温処理栽培技術確立のための資料とする。			
II 試験方法			
1 供試品種名 とよのか			
2 試験区の構成			
	試験年次	日長	温度
	63年	8時間	20, 22, 24, 26, 28, 30℃ (定温)
		8, 10, 12, 16時間	24℃ (定温)
		16時間	15℃
	1年	12時間	夜温 24, 20, 16℃ × 昼間 24, 28, 32℃
		10, 12, 14時間	25, 30℃
	2年	12時間	20, 24, 26, 27, 28, 30℃
3 供試苗 ポット育苗で養成した。			
4 調査方法			
(1) 日長と温度の組み合わせ試験は、人工気象器を用いて実施し、処理開始2週間目から5週間目まで適宜花芽分化状況確認のための検鏡を行い、1回につき5~10株供試した。			
(2) 花芽分化程度の判定は、処理後20日目頃に肥厚期に達した株、それ以降35日目までに肥厚期以上に達した株及び全く花芽分化しなかった株で判定した。			
III 主要成果の概要			
‘とよのか’の花芽分化に及ぼす温度・日長条件の相互の関係はおよそ次の3つに分類できる。			
(1) 花芽分化安定域 (花芽分化が安定して誘導される条件) 日長時間が12時間より短い場合には、温度は一定で概ね25℃より低い温度域である。日長時間が12時間より長くなると日長時間との相互作用が見られ、日長時間が長くなるほど花芽分化にはより低い温度が必要となる。			
(2) 花芽分化不安定域 (花芽分化誘導が不安定な条件) 日中の高温やイチゴ苗の体内栄養条件により花芽分化が左右される。日長時間が12時間より短い場合の限界温度は概ね25~27℃付近である。			
(3) 花芽分化不適域 (花芽分化が全く誘導されない条件) 花芽分化不安定域より高い温度域にあり、イチゴ苗の体内栄養条件に関わらず全く花芽分化しない。			

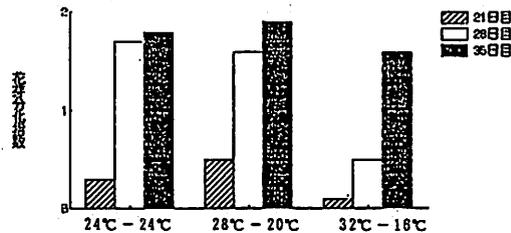
#### IV 主要成果の具体的データ



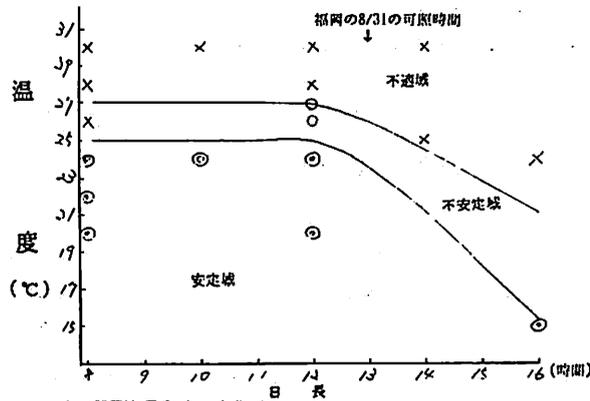
第1図 8時間日長下での温度条件と花芽分化 (63年)  
注) 花芽分化指数 0:未分化, 1:肥厚中期,  
(以下同じ) 2:花芽分化期, 3:がく片形成期



第2図 24°Cの下での日長条件と花芽分化 (63年)



第3図 昼・夜温度条件下での花芽分化 (1年)  
(昼温-夜温)



第4図 とよのかの花芽分化と温度・日長の関係 (63~2年)

◎: 安定した花芽分化  
○: 花芽分化可能  
×: 花芽分化不可

#### V 成果の評価と取扱上の留意点

‘とよのか’の花芽分化促進処理技術開発の資料となる。

#### VI 今後の研究上の問題点

- 1 花芽分化の高温による抑制条件の解明。
- 2 温度・日長条件を考慮した花芽分化時期予測式の作成。

#### VII 資料名

2年度 福岡県農業総合試験場園芸研究所 野菜試験成績書